

平成27年度全国学力・学習状況調査を踏まえた 分析と改善方策について

印南町立切目中学校

1 調査の概要

(1) 調査日 平成27年4月21日(火)

(2) 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(3) 調査内容

調査の対象 中学校第3学年 24名

教科に関する調査 国語、数学、理科

┌ 主として知識に関する問題(A)

└ 主として活用に関する問題(B)

生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

┌ 生徒質問紙調査 ----- 学習意欲、学習方法、学習環境、
生活の諸側面等

└ 学校質問紙調査 ----- 指導方法に関する取組や人的・物的な
教育条件の整備の状況等

2 教科に関する調査結果の概要

国 語

○どの領域も A（知識）、B（活用）ともほぼ全国平均同様、もしくは全国を上回っている。特に B（活用）は全ての領域で全国を上回り、一定の活用力がついているといえる。

○B（活用）の中で、書くことは全国平均を上回っているものの、全国的な傾向と同様に条件にそって自分の考えを書くことに課題が見られる。

（1）国語 A（知識）

◇意見文に対して出された指摘の理由として適切なものを選択することは、すべての生徒ができている。[A²— 100%]

◇漢字(ビョウソク五メートルの風が吹く)を書くことは、すべての生徒ができている。[A⁹— (1) 100%]

◇運筆の際の説明に対応する部分として適切なものを選択することは、すべての生徒ができている。[A⁹五 100%]

◆「青さ」の品詞として適切なものを選択することに課題がある。[A⁹四② 29.2%]

◆用いられている表現の工夫として適切なものを選択することに課題がある。[A³— 41.7%]

（2）国語 B（活用）

◇フリップを作成する際に取り入れたポイントとして適切なものを選択することは、すべての生徒ができている。[B¹二 100%]

◇ノートのその他の情報を役立てられる場合として適切なものを選択することは、ほとんどの生徒ができている。[B¹— 91.7%]

◇「お泣きなさるな」という翻訳の効果として適切なものを選択することは、ほとんどの生徒ができている。[B³— 91.7%]

◆資料を参考にして2020年の日本の社会を予想し、その社会にどのように関わっていきたいか、自分の考えを書くことに課題がある。[B²三 29.2%]

◆文章の最後の一文があった方がよいかどうかについて、話の展開を取り上げて自分の考えを書くことに課題がある。[B³三 37.5%]

学習指導要領の領域等	平均正答率 (%)	
	国語 (A)	国語 (B)
話すこと・聞くこと	78.1	83.3
書くこと	83.3	41.7
読むこと	89.2	68.8
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	74.8	—

全国平均に比べて5ポイント以上 上回る（青字）・下回る（赤字）

数 学

- A（知識）はどの領域も全国平均を上回っており、基礎基本については概ね身についていると考えられる。
- B（活用）では、問題を正確に読み取る事ができていないため、情報を処理することに課題が見られた。また、2つ以上の事象を関連付けて考察したり、具体的事象を関数として考えたりすることに課題が見られ、説明力が不十分である。

（１）数学A（知識）

- ◇ 同位角の位置にある角について正しい記述を選択することは、ほとんどの生徒ができています。[A $\boxed{6}$ （1） 95.8%]
- ◇ y が x の関数でない事象を選択することは、ほとんどの生徒ができています。[A $\boxed{9}$ 95.8%]
- ◇ 一次関数の表から、 x と y の関係を表した式を選択することは、ほとんどの生徒ができています。[A $\boxed{11}$ 95.8%]
- ◆ 赤いテープの長さが a cmで、白いテープの長さの $3/5$ 倍のとき、白いテープの長さを a を用いた式で表すことに課題がある。[A $\boxed{2}$ （2） 8.3%]
- ◆ 対頂角は等しいことの証明について正しい記述を選択することに課題がある。[A $\boxed{8}$ 29.2%]
- ◆ 二元一次方程式 $x + y = 3$ の解を座標とする点の集合として正しいものを選択することに課題がある。[A $\boxed{13}$ 33.3%]

（２）数学B（活用）

- ◇ 連続する3つの整数が19、20、21のとき、それらの和が中央の整数の3倍になるかどうかを確かめる式を書くことは、ほとんどの生徒ができています。[B $\boxed{2}$ （1） 95.8%]
- ◆ 映像の明るさを2倍にするための投影画面の面積の換え方を選び、その理由を説明することに課題がある。[B $\boxed{1}$ （3） 8.3%]
- ◆ ポップアップカードを 90° に開いたとき、四角形EFGHが正方形になる場合のEFの長さを求めることに課題がある。[B $\boxed{3}$ （1） 12.5%]
- ◆ 2回目の調査の方が落とし物の状況がよくなったとは言い切れないと主張することもできる理由を、グラフを基に説明することに課題がある。[B $\boxed{5}$ （2） 12.5%]

平均正答率（%）

学習指導要領の領域等	数学（A）	数学（B）
数と式	75.3	75.0
図形	71.2	34.4
関数	74.5	25.0
資料の活用	75.0	22.9

全国平均に比べて5ポイント以上 上回る（青字）・下回る（赤字）

理 科

- 知識面は全国平均を大きく上回っており、基礎基本については概ね身についていると考えられる。
- 活用面で、結果を予想したり、説明の誤りを訂正したりするような科学的思考力・表現力を必要とする場面に課題が見られる。

(1) 理科A (知識)

- ◇塩化ナトリウムの化学式を選択することは、ほとんどの生徒ができています。[1] (1) 91.7%
- ◇抵抗に加わる電圧と流れる電流から、抵抗の大きさを計算して求めることは、多くの生徒ができています。[5] (1) 87.5%
- ◆天気図から風向を読み取り、その風向を示している風向計を選択することに課題がある。[2] (2) 50.0%

(2) 理科B (活用)

- ◇キウイフルーツがゼラチンや寒天を分解する働きを説明した記述として適切なものを選択することは、多くの生徒ができています。[7] (2) 87.5%
- ◇電磁石を動かさず、スイッチを入れたり切ったりすると、検流計の針が振れる理由を、「磁界」という言葉を使って説明することは、多くの生徒ができています。[5] (2) 83.3%
- ◆湿った空気が斜面に沿って上昇してできる雲について、その成因を説明した他者の考えを検討して、誤っているところを改善することに課題がある。[2] (3) 12.5%
- ◆音の高さは、空気の部分の長さに関係しているという仮説が正しい場合に得られる結果を予想して選択することに課題がある。[6] (2) 20.8%
- ◆実験の結果から、凸レンズによる実像ができるときの、像の位置や大きさについて適切な説明を選択することに課題がある。[4] (1) 29.2%

平均正答率 (%)

学習指導要領の分野・領域		理科
1分野	物理的領域	53.6
	化学的領域	60.7
2分野	生物的領域	66.0
	地学的領域	46.5

全国平均に比べて5ポイント以上 上回る (青字)・下回る (赤字)

3 質問紙調査の結果の概要

(1) 勉強が「好き」「どちらかといえば、好き」と思う生徒の割合は、国語・理科ともに全国や県よりも小さいが、数学は全国や県よりも大きい。

	国語	数学	理科
学校	41.7	62.5	54.1
県	49.9	54.0	57.9
全国	60.5	56.0	61.9

(2) 授業の内容が「よくわかる」「どちらかといえば、よくわかる」と思う生徒の割合は、国語・数学・理科ともに全国や県を上回っている。

	国語	数学	理科
学校	83.3	95.9	70.8
県	70.2	72.8	67.0
全国	74.3	71.6	66.8

(3) 授業時間以外に全く勉強しない生徒の割合は、平日・休日とも全国・県より少なく、特に平日に勉強しない生徒はいない。ただし、1時間以上勉強をしている割合は、平日では本校 87.5、県 67.2、国 69.0、休日で本校 66.7、県 55.8、国 68.7 であることから、休日になると学習時間の短くなる生徒が多い。

	平日	休日
学校	0.0	8.3
県	7.3	17.5
全国	5.3	10.6

(4) 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを「工夫している」「どちらかといえば、工夫している」生徒の割合は、県より大きく、全国と同じである。

学校	54.1
県	43.7
全国	54.0

(5) 「家の人と学校での出来事について話をしますか」について、「している」と回答した生徒の割合は全国・県を大きく上回っている。

学校	66.7
県	43.8
全国	43.6

(6) 今住んでいる地域の行事に「参加している」「どちらかといえば参加している」と答えた生徒の割合は、全国や県を大きく上回っており、地域に関わっていかうとする意識が高い。

学校	79.1
県	39.7
全国	44.8

(7) 「本を読んだり借りたりするために学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか」について「週1回以上」と答えた生徒の割合は全国・県を大きく上回っている。

学校	66.6
県	5.8
全国	8.2

(8) 普段1日当たり1時間以上インターネット等（ゲームを除く）に携帯電話やスマートフォンを使用している生徒の割合は全国・県を下回っている。

学校	41.6
県	51.5
全国	47.6

(9) 自分で計画を立てて家庭学習を「している」「どちらかといえばしている」と答えた生徒の割合は全国・県をわずかに上回っているが、半数は計画的にできていない。

学校	50.0
県	44.5
全国	48.8

4 調査結果を踏まえた改善方策

(1) 学力に関して

①国語

与えられた条件にそって自分の考えを書くことに課題が見られる。そこで、次のことを行っていきたい。

- ・昨年度に引き続き、初見の文章の内容を要約する訓練として、コラム読解の取組を継続し、内容を理解する訓練を繰り返していく。
- ・国語以外でも行っているが、さまざまな資料から情報を読み取り、活用する学習の機会を意図的に増やしていく。

※文章力を高めることは短期間ではなかなか成果が出ないことから、継続して粘り強く取り組むことの大切さを指導していきたい。

②数学

単に解を求めるだけでなく、それに至る過程を説明したり、表現したりすることに課題が見られる。また、題意を正確に読み取れないため、情報の処理や考察等にも課題が見られた。そこで、次のことを行っていきたい。

- ・日常生活と関連付けた教材を工夫し、具体的事例で理解を図る。
- ・表現する力を身に付けるため、グループ学習の時間をとり、少人数で自分の考えを伝えることができるようにする。
- ・文章問題の要旨を図式化する等の指導をさらに多くしていく。
- ・思考の過程を大切にす授業展開を行っていく。

③理科

実験結果を予想したり、原因の説明の誤りを訂正したりするような科学的思考力や文章表現力に課題が見られた。そこで、次のことを行っていきたい。

- ・実験レポートの作成等で記述表現力を向上させる。
- ・常に根拠を明らかにして答えるように意識させる。
- ・ノートにも原因と結果の関係をを図式化して記述させるなど工夫させる。

☆どの教科においても表現力や条件に従い解答するなど筋道立てて考える点が課題となっている。教科の時間だけでなく、学校生活全般において課題を意識した取組を行い、指導していきたい。

(2) 生活全般について

① 特長

質問紙調査の結果にあるように、「地域行事への参加」に肯定的な回答が全国・県を3割以上上回っている。また、「家族が学校行事に来ますか」という問いに肯定的な回答が100%で、「家族と学校での出来事を話しますか」という問いにも肯定的な回答が全国・県を大きく上回っている。これらのことから家庭、地域と学校の連携の強さが感じられる。また、「図書室の利用」で週1回以上と答えた生徒が、全国・県を大きく上回っている。「読書」について強く「好き」と肯定している回答も66.7%で、全国44.9%、県39.1%を大きく上回っており、本を読む習慣が定着しているといえる。今後も家庭、地域と連携し、本校生徒の長所を伸ばしていきたい。

② 課題と見られる点

平日に比べ、休日になると学習時間が1時間以上と回答した生徒が87.5%から66.7%に減り、学習時間も減少している。また、平日に1時間以上インターネットやメール等を利用している生徒が41.6%、平日に1時間以上ゲーム（スマートフォンでのゲームも含む）をしている生徒が54.1%となっている。インターネット等とゲーム両方合わせると長時間になる生徒がいて、テレビの視聴時間も合わせて考えると物理的に家庭での学習時間を十分に確保できない生徒がいることになる。また、計画的に家庭学習していないと回答した生徒が半数になることから「家庭学習の手引き書」などを用い、折にふれ、家庭学習の重要性を伝えてきた。併せて、ノーテレビ、ノーゲームディ等の学習強調週間の取組を行うなど、家庭と連携し、子ども達の学習への意識向上に向けた取組を継続して行ってきた。調査月が4月なので、現時点においては3年生としての自覚もでき、調査当時より改善されていると考えるが、今後も引き続き、継続的な取組を行っていきたい。

※一部を取り出しての2次利用、また再配布を禁ず。 印南町教育委員会